

公開資料

社会技術研究開発事業  
研究開発実施終了報告書

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム  
シナリオ創出フェーズ

「地域の医療・保健・福祉・教育が連携して自殺  
ハイリスクの子どもを守る社会システムのシナリオ創出」

研究開発期間 令和 2 年 10 月～令和 4 年 9 月

研究代表者 立花 良之

(国立成育医療研究センターこころの診療部  
乳幼児メンタルヘルス診療 診療部長)

協働実施者 河西 千秋

(札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座 主任教授)

## 目次

I. 本研究開発実施終了報告書サマリー.....	3
II. 本編.....	4
1. 研究開発プロジェクトの目標.....	4
1-1. 研究開発プロジェクト全体の目標.....	4
1-2. プロジェクトの位置づけ.....	5
2. 研究開発の実施内容.....	5
2-1. 実施項目およびその全体像.....	5
2-2. 実施内容.....	10
3. 研究開発成果.....	12
3-1. 目標の達成状況.....	12
3-2. 研究開発成果.....	12
4. 研究開発の実施体制.....	15
4-1. 研究開発実施体制.....	15
4-2. 研究開発実施者.....	16
4-3. 研究開発の協力者.....	18
5. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	19
5-1. シンポジウム等.....	19
5-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	23
5-3. 論文発表.....	24
5-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）.....	24
5-5. 新聞報道・投稿、受賞など.....	24
5-6. 特許出願.....	25
6. その他（任意）.....	25

## I. 本研究開発実施終了報告書サマリー

子どもの自殺企図に対するケアのリソースは地域によって大きく異なる。長野市は児童精神科医療機関が少なく、子どもの心のケアを行うリソースが乏しい。また、東京都は全国の都道府県の中でも子どもの自殺数が非常に多い一方で、子どもの心のケアを行う医療機関は多いが、教育や児童福祉など関係機関との相互の連携体制が乏しく、その構築が課題である。特にこれらの地域において子どもの自殺・自傷のケアと予防が課題となっており、この解決に向けて、子どもの自殺を確実に防ぐための医療・保健・福祉・教育・NPO など地域の多職種が連携した支援システム構築を行った。

小児救急医療現場における自殺企図者に対する介入プログラムを作成した。成人領域で有効性のエビデンスが確立している ACTION-J のプログラム内容である心理的危機介入、系統的な心理社会的評価とそれに合わせたプランニング、心理教育に合わせ、小児領域特有の社会資源に留意したケースマネジメントを行う内容とした。また介入プログラムの均てん化のため、マニュアルを作成した。

上記プログラムの実施可能性試験を東京都中部西南ブロック（世田谷区、目黒区、渋谷区）及び長野市で行った。当初、救急現場を基軸とした地域システム構築に取り組んでいたが、子どもの自殺防止対策を医療モデルの枠組みだけで考えずに地域づくりとして取り組む観点が重要である。長野県では市民と協働した取り組みとして、医療・保健・福祉・教育・NPO などが連携した地域づくりのため、長野県子どもが真ん中円卓会議を定期開催し、地域連携のモデルづくりを行っていくこととした。

東京都中部西南ブロック、及び、長野県長野市において、自殺ハイリスクの子どもやその家族を医療・保健・福祉・教育・NPO などで連携してサポートする地域モデルを構築した。KPI として、地域の会議・事例検討に参画した関係者の人数は、東京都中部西南ブロックでは延べ 221 人、長野県では延べ 143 人となり、会議に参加し参加者同士が他の地域関係者とつながることができたと考えられる。

子どもの自殺予防に関わる人材の育成を行ったが、長野県及び東京都のスクールカウンセラー向けの研修会で教育効果について検証した。研修プログラムの前後で、対応スキル・対応についての自己効力感について心理指標を用いて比較したところ、研修プログラムの効果を認めた。この結果から、本研究で作成した研修プログラムの教育効果が示唆された。

今後、本研究の成果を他地域に実装・均てん化すべく取り組んでいく。本研究実施の中で、殆どの市区町村の自殺対策策定担当者が子どもの自殺対策として具体的な施策を有しておらず、地域自殺対策計画の中で子どもの自殺対策を盛り込めていない自治体が多いことが見えてきた。本研究で作成した子どもや家族への支援プログラムを盛り込んだ子どもの自殺対策計画策定パッケージを自治体に提供し、地域における子どもの自殺防止対策を推進していきたいと考えている。今後、本研究のメンバーが、地域自殺対策策定者に対し、子どもの自殺対策計画策定パッケージや研修を提供しつつ、PDCA サイクルを回して、地域における子どもの自殺対策の均てん化を図っていきたい。

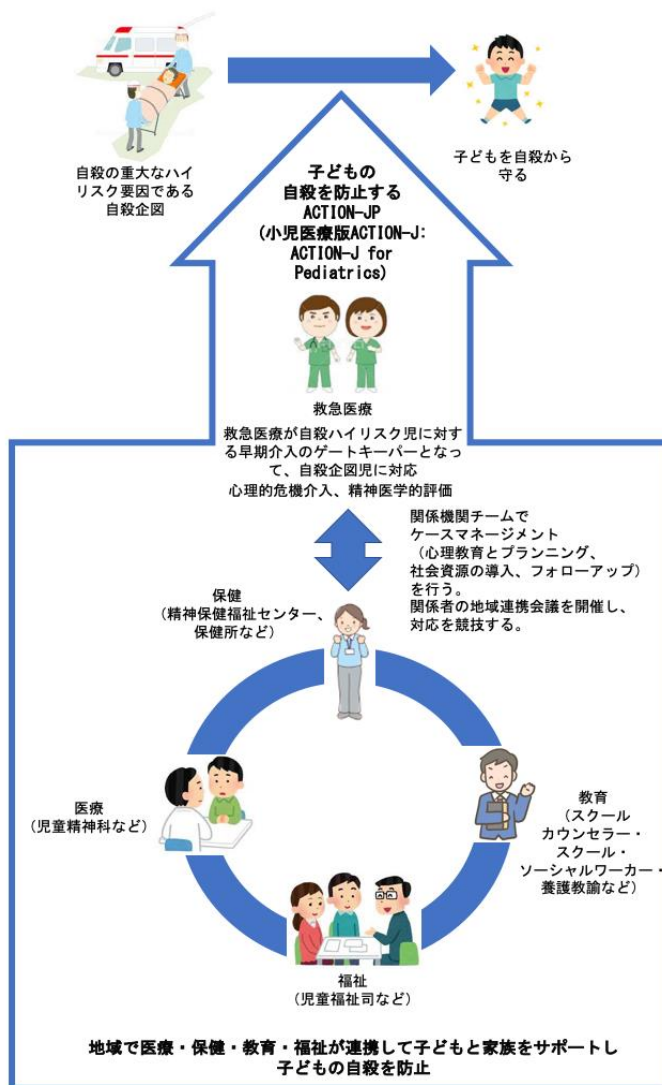
## II. 本編

### 1. 研究開発プロジェクトの目標

#### 1-1. 研究開発プロジェクト全体の目標

子どもの自殺を防ぐために、成人領域で自殺予防に有効であることが科学的に実証されている ACTION-J 介入プログラム(救急医療現場における自殺企図者に対し、正確な精神医学的評価、心理的危機介入、ケースマネジメントを行う自殺再企図防止の戦略研究[Kawanishi et al., 2014])を技術シーズとして用い、子どもの自殺のハイリスク者である自殺企図者をケアし自殺再企図を防ぐための医療・保健・福祉・教育・NPO などが連携した地域介入プログラム小児医療版 ACTION-J (ACTION-J for Pediatrics: ACTION-JP)を実践し、子どもの自殺の再企図を防ぐシステムを構築する。

長野市・東京都で ACTION-JP を実施し、アセスメントとフォローアップの実施率、自殺再企図率、子どもの自殺予防に関わる人材の育成とその教育効果などから有効性を検証することとした。



## 1-2. プロジェクトの位置づけ

新型コロナウイルス感染症拡大により、子どもたち同士の接触機会が減り、人と人との距離が広がって、不安や悩みを相談できない状況が深刻化しているケースが増えている。また、子ども・若者の自殺者数も増えている。そのような社会状況の中、本研究では子どもの心の SOS に気づき、様々な周囲の関係者が連携して子どもや家族をサポートする仕組みづくりを行う。

## 2. 研究開発の実施内容

### 2-1. 実施項目およびその全体像

#### 大項目 A: 有効なプログラム作成

#### 中項目 A-1: 救急医療現場における自殺企図者に対する介入プログラム小児医療版 ACTION-J(Action-J for Pediatrics: Action-JP)の作成

救急現場で使いやすい精神医学的評価のツールを開発する。具体的には、自殺企図者に対し、下記の自殺念慮（Ask Suicide-Screening Questions (ASQ) 日本語版）、早期精神病（PRIME Screen）、うつ病（Wholey の二質問法）についてのスクリーニングをタブレット PC 上で行うものとする。また、救急医療者が自殺企図者の心理社会的リスクを系統的に評価できるようなシートを ACTION-J で使われたものを参考に小児医療に即した内容に改変し作成する。それらの評価をもとに、心理的危機介入及びケースマネジメント（精神医学的評価に基づく心理教育とケアのプランニング、保健、学校や福祉との連携、ソーシャルワーカーが定期的に受診状況を確認することとする。

#### ACTION-JP のプログラム内容

従来の ACTION-J のプログラムの他に、小児医療の特性を踏まえ下記の内容とする。本人、両親の同意のもと、医療機関から ACTION-JP のコーディネーターである精神保健福祉士（以下 PSW という）に連絡をする。

1. PSW が学校（スクールカウンセラーまたはスクールソーシャルワーカーと連携を取り、今回の自殺企図のことを連絡し、児への対応に留意してもらうこと、必要があれば環境調整を行ってもらうことを依頼
2. 家庭内で養育不全や児童虐待があるようであれば、本人・両親の了承をできるだけとった上で、児童相談所と連携する（本人・両親の同意が得られなくても、必要があると判断すれば、児童相談所と連携を取る）
3. PSW が医療・保健・福祉・教育が連携してサポートするためのケア会議を開催。

期間：2020年10月～2022年9月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センター こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

河西千秋（札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座 教授）

辻聡（国立成育医療研究センター 救急診療科 診療部長）

三木崇弘（みくりキッズクリニック、東京都公立小学校スクールカウンセラー 児

童精神科医)

小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

水本深喜（松蔭大学 コミュニケーション文化学部 生活心理学科 准教授）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者

### **中項目 A-2. ACTION-JP のマニュアル作成**

上記 A-1 のマニュアルを作成する。

期間：2020年10月～2021年3月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センター こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

河西千秋（札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座 教授）

辻聡（国立成育医療研究センター 救急診療科 診療部長）

三木崇弘（みくりキッズクリニック、東京都公立小学校スクールカウンセラー 児童精神科医）

小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

水本深喜（松蔭大学 コミュニケーション文化学部生活心理学科 准教授）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者

### **大項目 B: 実施可能性試験**

長野市、東京都中部西南ブロックで ACTION-JP の実施可能性試験を行う。

#### **中項目 B-1: 東京都中部西南ブロックにおける ACTION-JP の実施可能性試験**

国立成育医療研究センター、東京医療センター、日本赤十字医療センター、東京都立広尾病院に搬送された子どもの自殺未遂症例があった際に、それぞれの医療機関で心理的危機介入と精神医学的評価を行う。患者・家族から、本研究事業の一環として、地域の関係機関でサポートする旨のインフォームドコンセントを得る。あわせて、ACTION-JP コーディネーターに関係者会議調整の依頼をする。B-1 同様に、医療・保健・福祉・教育が連携して、子どもと家族をフォローアップする。

期間：2020年10月～2022年9月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センター こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

辻聡（国立成育医療研究センター 救急診療科 診療部長）

古野毅彦（東京医療センター 精神科 医師）

福田倫明（日本赤十字医療センター メンタルヘルス科 部長）

岩田健（東京都立広尾病院 神経科 医長）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者（東京都中部西南ブロック）

### **中項目 B-2:長野市における ACTION-JP の実施可能性試験**

長野赤十字病院救命救急センターに搬送された子どもの自殺未遂症例があった際に、同院精神科にて心理的危機介入と精神医学的評価を行う。患者・家族から、本研究事業の一環として地域の関係機関でサポートする旨のインフォームドコンセントを得る。あわせて、長野県精神保健福祉センターに患者情報を連絡する。連絡を受けた同センターは、医療・保健・福祉・教育の関係者による子ども・家族のサポートのためのケア会議の日程調整を行い、ケア会議を開催する。同センタースタッフが、心理教育及び児童精神科受診状況の確認を救急受診1ヶ月後、2ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後に行う。

期間：2020年10月～2022年9月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センター こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

横山伸（長野赤十字病院 精神科 部長）

小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者（長野市）

#### **【KPI】**

- ・医療・保健・福祉・教育・NPO の領域にどのように繋がりができたか、繋がりの数
- ・地域の会議・事例検討に参画した関係者の人数・延べ人数

### **大項目 C：子どもの自殺予防のための研修会開催とその教育効果の検証**

大項目 A, B をもとに研修会を開催し、その教育効果を検証する。

期間：2022年4月～2022年9月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センター こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

河西千秋（札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座 教授）

辻聡（国立成育医療研究センター 救急診療科 診療部長）

三木崇（みくりキッズクリニック、東京都公立小学校スクールカウンセラー 児童精神科医）

齋藤尚大（横浜カメリアホスピタル 院長）

小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

水本深喜（松蔭大学コミュニケーション文化学部生活心理学科 准教授）

対象：自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者

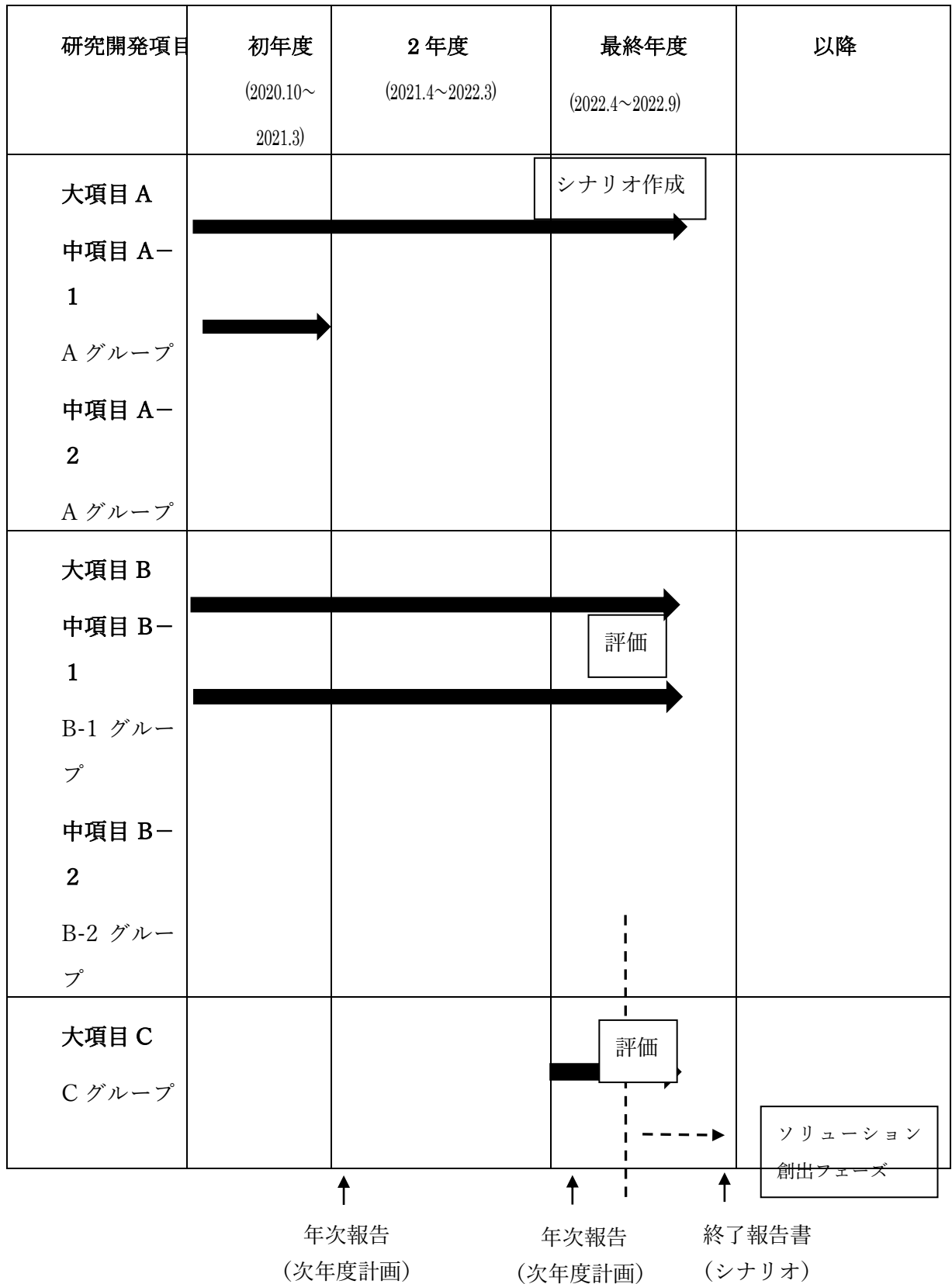
東京都中部精神保健福祉センター、長野県精神保健福祉センターの共催で行う。

**【KPI】**

- ・子どもの自殺予防に関わる人材の育成とその教育効果
- ・研修プログラムを受けた人の自殺防止に対する意識の変化（自殺予防のゲートキーパートレーニングの、効果検証の先行研究で使用されている心理指標を使用



研究期間中のスケジュール



## 2-2. 実施内容

### 大項目 A: 有効なプログラム作成

#### 中項目 A-1: 救急医療現場における自殺企図者に対する介入プログラム小児医療版

##### ACTION-J(Action-J for Pediatrics: Action-JP)の作成

###### (1) 内容・方法・活動

救急現場で使いやすい精神医学的評価のツールを開発した。具体的には、自殺企図者に対し、下記の自殺念慮（Ask Suicide-Screening Questions (ASQ)日本語版）、早期精神病（PRIME Screen）、うつ病（Wholey の二質問法）についてのスクリーニングをセット内容とした。また、救急医療者が自殺企図者の心理社会的リスクを系統的に評価できるようなシートを ACTION-J で使われたものを参考に小児医療に即した内容に改変し作成した。それらの評価をもとに、心理的危機介入及びケースマネジメント（精神医学的評価に基づく心理教育とケアのプランニング、保健、学校や福祉との連携、ソーシャルワーカーが定期的に受診状況を確認することとした。

###### (2) 結果

##### ACTION-JP のプログラム内容

従来の ACTION-J のプログラムの他に、小児医療の特性を踏まえ下記の内容とした。

1. 本人、両親の同意のもと、医療機関から ACTION-JP のコーディネーターである精神保健福祉士（以下 PSW という）に連絡をする。
  2. PSW が学校（スクールカウンセラーまたはスクールソーシャルワーカーと連携を取り、今回の自殺企図のことを連絡し、児への対応に留意してもらうこと、必要があれば環境調整を行ってもらうことを依頼。
  3. 家庭内で養育不全や児童虐待があるようであれば、本人・両親の了承をできるだけとった上で、児童相談所と連携する。（本人・両親の同意が得られなくても、必要があると判断すれば、児童相談所と連携を取る）
  4. PSW が医療・保健・福祉・教育が連携してサポートするためのケア会議を開催。
- 対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者

##### 中項目 A-2. ACTION-JP のマニュアル作成

###### (1) 内容・方法・活動

A-1 の内容のマニュアルを作成した。

###### (2) 結果

マニュアル作成を 2020 年 10 月～2021 年 3 月に行い、完成させた。

## **大項目 B: 実施可能性試験**

### **中項目 B-1: 東京都中部西南ブロックにおける ACTION-JP の実施可能性試験**

#### (1) 内容・方法・活動

国立成育医療研究センター、東京医療センター、日本赤十字医療センター、東京都立広尾病院に搬送された子どもの自殺未遂症例があった際に、それぞれの医療機関で心理的危機介入と精神医学的評価を行うこととした。患者・家族から、本研究プロジェクトの一環として、地域の関係機関でサポートする旨のインフォームドコンセントを得てケースマネージメントを行う。そのようなシステム運営のため、東京都中部西南ブロックの医療・保健・福祉・教育機関関係者と月1度の定例会議を行った。

か

#### (2) 結果

2021年8月より東京都中部西南ブロックで関係者会議を月に一度定期開催した。関係者同士の連携の難しさが浮き彫りになった。たとえば、教育現場は個人情報保護のため、外部機関に情報を提供することが極めて難しい。医療側から本人・家族の了承のもと情報提供はできても、教育側から医療に情報提供することは教育委員会などが許可しないことが多い。一方で児童虐待防止のための要保護児童対策地域協議会では関係者間で情報共有することが、児童福祉法のもと可能とされている。自殺ハイリスクの子どもは、要保護児童対策地域協議会の対象となっていない。今後、医療・保健・福祉・教育・NPOなどが、自殺ハイリスクの子どもや家族のケアのために協議を行う体制を整備していく上で、自殺ハイリスクの子どものケアを要保護対策地域協議会の対象とするように、社会に働きかけていくことは有益と考えられた。また、児童相談所は子どもの安全を守る最後の砦のような存在であるが、児童相談所の機能として自殺ハイリスクの子どもへの対応が含まれていない。児童虐待での心的外傷体験は自殺念慮のきわめて重要な危険因子とされており、児童福祉で対応しているような被虐待歴のある児童は慢性的に自殺念慮を有していることが多く、自殺ハイリスクの子どもも多い。今後、児童相談所など児童福祉が自殺ハイリスクの子どもに対応するように、児童福祉関係者の啓発、及び、児童相談所などの児童福祉機関で対応する子どもの対象として自殺ハイリスクの子どもが含まれるように社会への働きかけが必要と考えられた。

### **中項目 B-2: 長野市における ACTION-JP の実施可能性試験**

#### (1) 内容・方法・活動

長野赤十字病院救命救急センターに搬送された子どもの自殺未遂症例があった際に、同院精神科にて心理的危機介入と精神医学的評価を行う。患者・家族から、本研究事業の一環として地域の関係機関でサポートする旨のインフォームドコンセントを得て、ケースマネージメントを行うモデルを実施することとした。

プロジェクト戦略会議で、子どもの自殺防止対策を医療モデルの枠組みだけで考えずに地

域づくりとして取り組む重要性についてアドバイスを受け、また、市民と協働した取り組みとして、長野県のNPO（CAPながの）と連携し「こどもが真ん中円卓会議」を行うことの提案をいただいた。その後より、医療・保健・福祉・教育・NPOなどが連携した地域づくりのために、長野県子どもが真ん中円卓会議を定期開催し、地域連携のモデル造りを行っていくこととした。

## （2）結果

長野県子どもが真ん中円卓会議を2021年10月より定期開催し、医療・保健・福祉・教育・NPO関係者が協働して、「顔の見える連携」を作っていく会議体のモデルを構築した。

## 3. 研究開発成果

### 3-1. 目標の達成状況

東京都中部西南ブロック、及び、長野県長野市において、自殺ハイリスクの子どもやその家族を医療・保健・福祉・教育・NPOなどで連携してサポートする地域モデルの構築を達成できた。

KPIにあった地域の会議・事例検討に参画した関係者の人数は、東京都中部西南ブロックでは延べ221人、長野県では延べ143人となり、会議に参加し参加者同士が他の地域関係者とつながることができたと考えられる。

子どもの自殺予防に関わる人材の育成を行ったが、長野県及び東京都のスクールカウンセラー向けの研修会で教育効果について検証した。研修プログラムの前後で、対応スキル・対応についての自己効力感について心理指標を用いて比較したところ、研修プログラムの効果を認めた。この結果から、本研究で作成した研修プログラムの教育効果が示唆された。

### 3-2. 研究開発成果

#### （1）内容

1) 救急医療を起点として、医療・保健・福祉・教育が連携した自殺ハイリスクの子どものケアモデル構築

##### ・成果の具体的内容

救急医療を起点として、医療・保健・福祉・教育が連携して自殺ハイリスクの子どもやその家族のケアを行う多職種連携システムのモデルづくりを東京都中部西南ブロックで行った。

##### ・受益者

自殺ハイリスクの子どもやその家族:45人の子どもとその家族（国立成育医療研究センター・東京医療センター・東京都立広尾病院の合計）

自殺ハイリスクの子どもやその家族をケアする医療・保健・福祉・教育関係者：112人

##### ・担い手

自殺ハイリスクの子どもやその家族をケアする医療・保健・福祉・教育関係者：112人

- ・新規性や有効性（得られた学術的知見や方法論が、関連する国内外の研究開発や類似の取り組みと比べて、どのような点で新規性や有効性があるのか等）

これまでは自殺ハイリスクの子どものケアについての介入プログラムは、一つの職種によるものがほとんどであり、多職種での地域連携システムによるものはなかった。また、成人の自殺予防の領域でエビデンスのある介入プログラム ACTION-J でも、地域資源のソーシャルワークが含まれているが、成人と子どものケアの領域では関わる機関・職種が大きく異なる。本研究では、これまでの自殺予防における多職種連携に含まれていなかった子ども特有の機関（職種）である教育（スクールカウンセラー・養護教諭・教諭）、児童福祉（児童福祉司、心理士）、保健（思春期担当の保健師）などを含んだ地域連携システムを構築した。

- ・第三者が利用可能な状態であれば、成果物の入手・利用方法等

地域関係者向けの研修会を本研究メンバーで実施している。

## 2) 子どもの自殺防止対策のための研修会プログラム

- ・成果の具体的内容

成人領域の自殺防止対策 ACTION-J における関係者のための研修プログラムをもとに、小児領域の特性に留意して、心理的危機介入、系統的な心理社会的評価とプランニング、地域資源の導入や関係機関との連携のケースマネジメントのプログラム内容としている。講義に加えて、事例検討を取り入れ、研修参加者同士が意見交換をし、能動的に学べる。

- ・受益者（担い手から便益を受ける人）

自殺ハイリスクの子どもとその家族

- ・担い手（ユーザー、得られた成果を使う人）

自殺ハイリスクの子どもやその家族をケアする医療・保健・福祉・教育関係者

- ・新規性や有効性（得られた学術的知見や方法論が、関連する国内外の研究開発や類似の取り組みと比べて、どのような点で新規性や有効性があるのか等）

エビデンスに基づく自殺予防対策 ACTION-J の研修プログラムをもとにしている。このようなエビデンスに基づく研修プログラムは、小児領域での自殺予防対策としては本邦初である。また、小児領域特有の社会資源を考慮に入れたケースマネジメントをプログラムに取り入れているところも本プログラムが持つ新規性であり、また、関係機関の強みを生かして自殺ハイリスクの子どもや家族をサポートできる有効性を持つと考えられる。

## 3) 子どもの自殺防止対策のための医療・保健・福祉・教育・NPOなどの会議体パッケージ

- ・成果の具体的内容

子どもの自殺防止対策のための医療・保健・福祉・教育・NPO 関係者の会議体のセットアップ、実施のモデルづくりを東京都中部西南ブロック、長野県で行った。

東京都中部西南ブロックの会議では、関係機関の管理職や実務者が集まり、地域連携について協議する場のモデルを構築した。長野県では、「長野県子どもが真ん中円卓会議」を定期

開催し、子どもや家族のケアに関わる実務者が集まり事例検討を通して意見交換を行い「顔の見える連携」を構築するモデルづくりを行った。

- ・受益者（担い手から便益を受ける人）

自殺ハイリスクの子どもとその家族

- ・担い手（ユーザー、得られた成果を使う人）

自殺ハイリスクの子どもやその家族をケアする医療・保健・福祉・教育・NPO 関係者

- ・新規性や有効性（得られた学術的知見や方法論が、関連する国内外の研究開発や類似の取り組みと比べて、どのような点で新規性や有効性があるのか等）

子どもの自殺対策のために、関係者が定期的集まり意見交換する場を地域に作ることで、多職種地域連携をスムーズにする効果があると考えられる。また、このような関係者のネットワークづくりを子どもの自殺対策の中に取り入れたことは新規性を有すると考えられる。

- ・第三者が利用可能な状態であれば、成果物の入手・利用方法等

ネットワークづくりについては本研究の研修プログラムの中で取り上げている。

## （2）活用・展開

- ・継続的に使われていくための基盤等の整備状況

均てん化のための研修パッケージを完成させており、また、研修のためのファシリテーターや講師の養成も行っている。均てん化にあたっては、厚生労働省の、子どもの心の診療拠点病院事業の施設・設備などを利用予定である。

- ・他の地域や組織等への展開の可能性

本研究の研修プログラムを、協働実施者の河西が副理事長を務める日本自殺予防学会の研修や、厚生労働省子どもの心の診療拠点病院事業などを通して、医療・保健・福祉・教育・NPO 関係者に均てん化していく予定である。令和4年度に東京都・長野県でスクールカウンセラー向けの研修会、目黒区で保健・福祉関係者向けの研修会を実施している。

- ・制度等の立案のエビデンスとなり得る可能性

医療機関が保健・福祉・教育など連携して自殺ハイリスクの子どもをケアした際の診療報酬加算

日本精神神経学会などの関連学会を通して診療報酬化の働きかけを今後行っていきたいと考えている。

- ・活用・展開に向けて今後取り組む内容

医療・保健・福祉・教育・NPO などの関係者向けの研修会により本研究の成果の均てん化を行っていく。また、地域自殺対策策定に携わっている自治体関係者向けに、子どもの自殺対策パッケージを提供する研修会を行い、本研究成果の均てん化を行っていく。

### (3) その他

- ・副次的効果（意図しなかった想定外の成果や目標達成に向けた直接の成果以外の成果）  
本研究課題は、当初救急現場を起点とする医療・保健・福祉・教育の連携による自殺ハイリスク児のための介入プログラム構築を主眼としていた。その中で、子どもの自殺対策やメンタルヘルスケアに取り組む地域づくりの重要性が明らかになってきた。さらに、子どもの居場所づくりなどを始めとして、地域で子どもや家族のサポートに携わっているNPOなど市民の存在も、子どもの自殺対策のための地域づくりに不可欠であることをプロジェクト戦略会議でアドバイスいただいて、市民と協働したモデル構築に取り組むこととなり、「長野県子どもが真ん中円卓会議」を実施することとなった。「子どもが真ん中円卓会議」のようなNPOなど市民と協働する地域自殺対策のモデルづくりを行うことができ、これを継続して他地域にも「子どもが真ん中円卓会議」を展開していきたいと考えている。

## 4. 研究開発の実施体制

### 4-1. 研究開発実施体制

#### 4-1-1. グループ名、役割等

グループ A-1 (ACTION-JP プログラムの作成) : 辻、立花、小泉、河西、水本

グループ A-2 (ACTION-JP のマニュアル作成) : 三木、水本、立花、河西

グループ B-1(長野市における実施可能性試験) : 立花、小泉、横山

グループ B-2 (東京都中部西南ブロックにおける ACTION-JP の実施可能性試験) : 立花、辻、古野、福田、岩田

グループ C(子どもの自殺予防のための研修会開催とその教育効果の検証) : 立花、河西、辻、三木、小泉、水本

#### 4-1-2 協働実施者に期待された主な役割と、研究開発の実施に際して、実際に果たした役割、さらに、研究代表者と協働実施者との協働による主な成果

協働実施者の河西の役割は、成人領域で自殺対策としての有効性のエビデンスを確立している ACTION-J の研修を元に、本研究において関係者の研修プログラムを作成すること、および河西が副理事長を務める日本自殺予防学会などをプラットフォームとして本研究成果を均てん化していくことである。児童精神科医の立場から研究代表者の立花は河西と協働して、ACTION-J のモデルをもとに小児領域特有の心理社会的評価・プランニングやケースマネジメントを加え、新しい子どもの自殺防止対策の地域介入モデルを作成することができた。

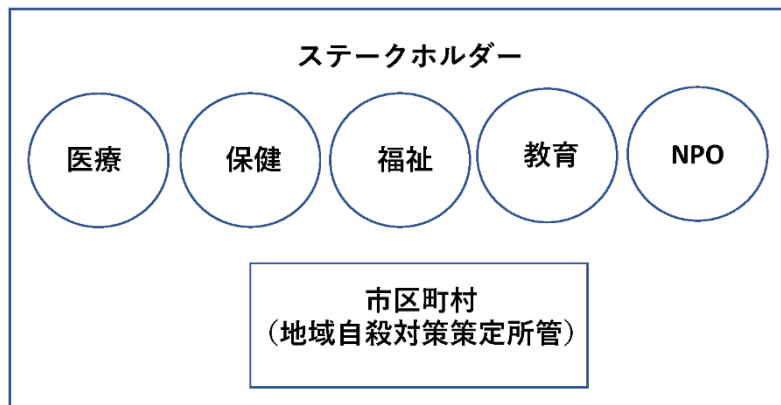
#### 4-1-3 事業終了時点でのステークホルダーマップ

本研究で構築した医療・保健・福祉・教育・NPOなどが連携して  
自殺ハイリスクの子どもや家族を支える地域連携モデル

均てん化



厚生労働省子どもの心の診療拠点病院事業  
日本自殺予防学会 自殺予防センターなど



#### 4-2. 研究開発実施者

#### 救急医療現場における自殺企図者に対する介入プログラム小児医療版 ACTION-J (ACTION-JP)

##### A-1 グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
辻 聡	ツジ サトシ	国立成育医療研究センター	総合診療部救急診療科	診療部長
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療研究センター	こころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科	診療部長
小泉 典章	コイズミ ノリアキ	長野県精神保健福祉センター		所長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精神医学講座	教授
水本 深喜	ミズモト ミキ	松蔭大学	コミュニケーション文化学部生活心理学科	准教授



A-2 グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療研究センター	こころの診療部 乳幼児メンタル ヘルス診療科	診療部長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精神 医学講座	教授
水本 深喜	ミズモト ミキ	松蔭大学	コミュニケーション 文化学部生 活心理学科	准教授
三木 崇弘	ミキ タカシ	みくりキッズクリ ニック		医師

B-1 グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療研究センター	こころの診療部 乳幼児メンタル ヘルス診療科	診療部長
横山 伸	ヨコヤマ シン	長野赤十字病院	精神科	部長
小泉 典章	コイズミ ノリアキ	長野県精神保健福祉センター		所長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精神 医学講座	教授

B-2 グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療研究センター	こころの診療部 乳幼児メンタル ヘルス診療科	診療部長
辻 聡	ツジ サトシ	国立成育医療研究センター	総合診療部救急 診療科	診療部長
古野 毅彦	フルノ タケヒコ	東京医療センター	精神科	医長
福田 倫明	フクダ リンメイ	日本赤十字社 医療センター	メンタルヘルス 科	部長
中ノ谷 貴子	ナカノタニ タカコ	東京都立広尾病院	精神科	医長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精神 医学講座	教授

C グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療研究センター	こころの診療部 乳幼児メンタル ヘルス診療科	診療部長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精神 医学講座	教授
水本 深喜	ミズモト ミキ	松蔭大学	コミュニケーション 文化学部生 活心理学科	准教授
三木 崇弘	ミキ タカシ	みくりキッズクリ ニック		医師
辻 聡	ツジ サトシ	国立成育医療研究センター	総合診療部救急 診療科	診療部長
小泉 典章	コイズミ ノリアキ	長野県精神保健福祉 センター		所長

4-3. 研究開発の協力者

(公開)

氏名	フリガナ	所属	役職(身分)	協力内容
辻 聡	ツジ サトシ	国立成育医療研究センター 総合診療部 救急診療科	診療部長	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり
古野 毅彦	フルノ タケヒコ	東京医療センター 精神科	医長	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり
福田 倫明	フクダ リンメイ	日本赤十字社医療センター メンタルヘルス科	部長	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり
中ノ谷 貴子	ナカノタニ タカコ	東京都立広尾病院 精神科	医長	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり
熊谷 直樹	クマガイ ナオキ	東京都中部総合精神保健福祉センター	所長	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり
小泉 典章	コイズミ ノリアキ	長野大学	客員教授	長野県における地域連携システムづくり

横山 伸	ヨコヤマ シン	長野赤十字病院 精神科	部長	長野県における地域連携システムづくり
水本 深喜	ミズモト ミキ	松蔭大学 コミュニケーション文化学部 生活心理学科	准教授	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり
三木 崇弘	ミキ タカシ	みくりキッズクリニック	非常勤医師	東京都中部西南ブロックにおける地域連携システムづくり

## 5. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

東京都中部西南ブロック（世田谷区・目黒区・渋谷区）において、子どもの自殺防止のための関係者会議を毎月実施している。また、長野県では、長野県子どもが真ん中円卓会議を毎月実施している。

### 5-1. シンポジウム等

#### 5-1-1. プロジェクトで主催したイベント（シンポジウム・ワークショップなど）

年月日	名称	場所	概要
2020年10月22日	東京都中部西南ブロック子ども自殺防止対策会議	東京医療センター	目黒区における ACTION-JP 実施について協議を行った。
2020年10月29日	東京都中部西南ブロック子ども自殺防止対策会議	世田谷区役所 第一庁舎会議室	世田谷区における子どもの自殺防止対策について協議を行った。
2020年10月30日	長野市子ども自殺防止対策会議	長野県精神保健福祉センター	長野市における ACTION-JP 実施について協議を行った。
2020年12月3日	東京都中部西南ブロック子ども自殺防止対策会議	日本赤十字社 医療センター	渋谷区における ACTION-JP 実施について協議を行った。
2021年2月22日	ACTION-JP プログラム会議	Web 開催	ACTION-JP のプログラム内容について協議を行った。

2021年3月 29日	ACTION-JP 全 体会議	Web 開催	ACTION-JP 研究班の全メンバー が集まり、プログラム内容・今後の 地域での介入プログラム実施に ついて協議を行った。
2021年8月 10日	第1回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2021年9月 10日	第2回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2021年10月 8日	第3回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2021年10月 11日	長野県子どもの 自殺防止対策 コアメンバー会 議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、 連携のための課題抽出・ネットワ ークづくりのための協議
2021年10月 15日	長野県子どもが 真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者向けの、子どもの 自殺防止のための事例検討、ネッ トワークづくりのための協議
2021年11月 5日	第4回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2021年11月 18日	長野県子どもの 自殺防止対策 コアメンバー会 議	Web 開催	長野県の関係者向けの、子どもの 自殺防止のための事例検討、ネッ トワークづくりのための協議
2021年11月 25日	長野県子どもが 真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、 連携のための課題抽出・ネットワ

			ークづくりのための協議
2021年12月 3日	第5回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2021年12月 20日	長野県子どもの自殺防止対策コアメンバー会議	Web 開催	長野県の関係者向けの、子どもの自殺防止のための事例検討、ネットワークづくりのための協議
2021年12月 23日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年1月 7日	第6回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年1月 20日	長野県子どもの自殺防止対策コアメンバー会議	Web 開催	長野県の関係者向けの、子どもの自殺防止のための事例検討、ネットワークづくりのための協議
2022年1月 23日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年2月 4日	第7回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年2月 21日	長野県子どもの自殺防止対策コアメンバー会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年2月 24日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワ

			ークづくりのための協議
2022年3月 4日	第8回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年3月 28日	長野県子どもの自殺防止対策コアメンバー会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年3月 31日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年4月 8日	第9回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年4月 22日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年5月 13日	第10回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年5月 24日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年6月 10日	第11回東京都中部西南ブロック子どもの自殺防止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷区・渋谷区・目黒区）の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワークづくりのための協議
2022年6月 22日	長野県子どもが真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、連携のための課題抽出・ネットワ

			ークづくりのための協議
2022年7月 4日	長野県スクール カウンセラー子 どもの自殺防止 対策研修会	Web 開催	スクールカウンセラー向けの、子 どもの自殺防止対策の研修会
2022年7月 8日	第12回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2022年8月 1日	長野県子どもの 自殺防止対策 コアメンバー会 議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、 連携のための課題抽出・ネットワ ークづくりのための協議
2022年8月 5日	第13回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2022年8月 19日	長野県子どもが 真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、 連携のための課題抽出・ネットワ ークづくりのための協議
2022年9月 2日	第14回東京都中 部西南ブロック 子どもの自殺防 止対策会議	Web 開催	東京都中部西南ブロック（世田谷 区・渋谷区・目黒区）の関係者会 議、事例検討、連携のための課題 抽出・ネットワークづくりのため の協議
2022年9月 5日	長野県子どもが 真ん中円卓会議	Web 開催	長野県の関係者会議、事例検討、 連携のための課題抽出・ネットワ ークづくりのための協議

## 5-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

5-2-1. 書籍、フリーペーパー、DVD など論文以外に発行したもの  
なし

#### 5-2-2. ウェブメディアの開設・運営

なし

#### 5-2-3. 学会以外のシンポジウムなどでの招へい講演 など

・立花良之、子どもの自殺と防止の対策、J-CAPTA フィンケルホー記念 2021：オンライン連続講座 第1回、2021年12月14日

#### 5-3. 論文発表

##### 5-3-1. 査読付き（2件）

・辻聡、立花良之、窪田満、「小児期自殺念慮・自殺企図事例の検討」 日本小児救急医学界雑誌 (21)1 pp.8-12, 2022

・立花良之、辻聡、岩田遼、河西千秋、「子どもの自殺防止 —自殺企図による救急受診後のケース・マネジメント介入について—」、精神神経学雑誌、第124巻第5号、P.315-322

##### 5-3-2. 査読なし（0件）

#### 5-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

##### 5-4-1. 招待講演（国内会議 2件、国際会議 0件）

(1)立花 良之. 子供の自殺を防ぐために精神科医ができること 子どもの自殺企図 救急の現場から. 第117回日本精神神経学会学術総会 精神保健に関する委員会シンポジウム 2021年9月19日

(2)立花良之、子どもの自殺と防止の対策、J-CAPTA フィンケルホー記念 2021：オンライン連続講座 第1回、2021年12月14日

##### 5-4-2. 口頭発表（国内会議 0件、国際会議 0件）

##### 5-4-3. ポスター発表（国内会議 0件、国際会議 0件）

#### 5-5. 新聞報道・投稿、受賞など

##### 5-5-1. 新聞報道・投稿

なし

##### 5-5-2. 受賞

なし



5-5-3. その他

なし

5-6. 特許出願

5-6-1. 国内出願（ 0 件）

5-6-2. 海外出願（ 0 件）

6. その他（任意）

なし